

気仙沼高等学校にて講演とワークショップを行いました(2016/6/29)

テーマ：スーパーグローバルハイスクール，防災教育
場所：宮城県気仙沼高等学校（気仙沼市）

6月29日（水）に，宮城県気仙沼高等学校にて，当研究所の川島秀一教授（人間・社会対応研究部門）が講演を，佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）がワークショップ・ファシリテーターをつとめました。同校は，スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定校の一つです。SGHは，文部科学省の事業で，高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して，生徒の社会課題に対する関心と深い教養，コミュニケーション能力，問題解決力等の国際的素養を身に付け，国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。気仙沼高校は，「海を素材とするグローバルリテラシー育成～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～」というプログラム名で，SGH事業に採択されています。今回の講演とワークショップは，同校の1年生を対象にして，「地域社会研究」を行う前段として開催されたものになります。

同校のOBでもある川島秀一教授は，「気仙沼の風土と災害史」と題して，気仙沼市の成り立ちについて，風土の変化や災害との関係について講演しました。佐藤翔輔助教は，講演内容を「ワークショップでふりかえる」と題して，講演で得られた「学び」を生徒さんとともにワークショップ形式で「見える化」していきました。ワークショップには，全1年生の240名が参加し，終始，和やか・和気あいの雰囲気で行われました。



川島秀一教授による講演



会場の様子（講演中）



ワークショップの様子（1）

※写真右：佐藤翔輔助教



ワークショップの様子（2）

文責：川島秀一（人間・社会対応研究部門），佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）